

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社 山秀 マミー・ケア・サポート		
事業所名	有限会社山秀マミー・ケア・サポートグループホーム	ユニット名	マミーケアサポート2F
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬1丁目10番50号		
自己評価作成日	平成29年10月26日	評価結果市町村受理日	平成31年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202437-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202437-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年11月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいをもち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めます。  
入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。毎週全員参加型レクリエーションを企画し、また地域での音楽会などの催しにご家族も積極的に参加して下さい、とても楽しみにして頂いています。四季の移り変りに合わせて、四季折々の花や掲示物などをかざる事で、季節を感じる事の出来る暖かい空間を提供しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該グループホームは法人建屋の2階と3階に所在している。1階はデイサービス事業所・訪問介護事業所・居宅介護支援事業所、さらに障害者居宅介護・移動支援事業所、建屋全体の事業を管理する事務室で構成されている。グループホームの管理者は2階と3階を管理し、専任の責任者のもと全体が運営されている。責任者と各職員との意思疎通は良好で、細かなことまで職員に浸透しており委ねられている。事業所理念を遂行するには利用者一人ひとりの生活歴や性格を理解し、丁寧に寄り添い生活支援をする事が大切と考え、基準を超える人員を配置している。利用者が明るく穏やかに過ごしている姿を見ることができた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいをもち、共に生きよう」という理念に基づき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けて努力をしている。	法人理念を念頭に掲げた事業所理念を全職員が共有して職務を遂行する為には、利用者一人ひとりに寄り添う機会を増やす事が大切と認識し、基準以上の職員をシフトして実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域の行事に参加したり、老人会ボランティアを受け入れたりしている。施設の行事や防災訓練のお知らせを町内に回覧して地域に向けての発信をしている。	事業所が所在する建屋のオーナーが町内会長であり、町内会の行事に誘いを受たり、事業所行事の案内を回覧してもらったりしている。地域との関係は良好で、地域住民による楽器演奏や踊りなどボランティアの受け入れにも積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様が日々近所を散歩される折に、職員が仲立ちとなり、地域の方々と挨拶を交わし、認知症への理解や関心が得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表・施設長・職員で2ヶ月に1回の会議を開催している。	会議は隔月1回で定期的に開催している。町内会長や民生委員等の地域代表の出席は有るが、地域包括支援センターからの出席は年1回である。会議録の活動内容などに記録は簡単で審議内容も少ない。	地域密着型サービスにおける運営推進会議開催の意義と重要性を再認識し、出席委員や報告内容を充実させ、議題による審議や議事録の作成と活用を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの指導のもと、必要に応じて連絡を取ったり、助言を受けたりしながら質の向上を図り、協力関係を築くようにしている。	集団指導で知り得た情報を更に消化する為に窓口に向いたり、利用者の家庭内トラブルから生じた処遇問題を地域包括支援センターや市窓口と解決したりと関係は良好である。シニアボランティア制度の導入している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束についての研修会に参加し、伝達研修を通じて全職員の理解を図っている。3か月に一回内部研修を行い身体拘束適正化の為の指針の確認を行っている。	全職員は身体拘束をしないケアを実践する意義を理解しており、法人としてもゼロ宣言している。平成30年度法改正に伴う身体拘束等、適正化の為の指針を研修会や委員会の開催時に具体的事例を挙げて確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	市のホームページを活用し、虐待についての資料をミーティングで読み合う等、職員への周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する研修会に参加し、伝達研修を通じて全職員の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項の説明・看取りの方針などに関しては、十分な理解や納得が得られるまで説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご自分の意思を伝えて下さる利用者様はもとより、発意の少ない利用者様においても、様子やしぐさ態度などから判断して、運営に反映している。外部者へ表出する機会を設けていない。	家族の来訪は多く、管理者やフロア一長・担当者が対応して意見や要望の反映に努めている。利用者に寄り添って生活支援をする過程での思いや意向は、担当者に伝えられ反映される仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営に関する職員の意見や提案を書面で集約・把握・検討する仕組みがある。 また、毎月のミーティングにて職員からの意見の聞き取りを行っている。	年1回、職員は法人作成の提案書を兼ねた自己評価様式の設問に記入し提出している。結果は管理者との面接で解決する仕組みがある。日常の気付きからの意見や提案は、ミーティングや仕事の流れの中で解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護離職の多い中、待遇面だけでなくやりがいのある仕事であるということを職員に啓蒙することで定着を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や実績に応じて様々な研修会への参加を奨励したり、介護福祉士免許の取得の斡旋をしたり等職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加をきっかけに他事業所も同様に抱えていると思われる諸問題等について積極的に意見をかわすことができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、安心感を抱いて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を聴き取り、医師をはじめ他職種と連携してサービス利用に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様への支援を継続する中で、入居時には見ることのできなかった感情の表現や会話が生まれ、利用者様からのねぎらいの言葉をうけることもみられる。自ら活動に参加され、職員が元気づけられる場面が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へのお便りの発送(毎月)・季節ごとの行事等をお知らせして、ご家族との絆を保つように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人なじみの町内会の行事や趣味のサークルへの参加に付き添いしている。可能な限り、ご家族と外出して頂けるよう働きかけている。	町内に住む友人の誘いで老人会の行事に出席したり、病院受診の際に馴染みの店で家族と一緒に昼食を摂ったりしている。町内での様々な行事への誘いがあり、有志での参加を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす時間等を利用し、一ヶ所に集い、共に歌や体操をしたり、TVを見たりする時間を意図的に設けて、一人ひとりが孤立することがないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された利用者様や、ご家族からの要望があれば、フォローの体制を継続して相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族に対し面談や書面にて意向の聴き取りをしている。入居後は、ご本人の様子を見守りながらも、ご家族の目から見た様子の相違点があれば、申し出てもらうようにしている。	利用者の思いや訴えは、利用者毎の担当職員に集まり記録されてモニタリング資料にもなっている。家族からの思いや要望は医療に関する事柄が多く、家族が安心できるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行っている。日常生活の中でご本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように介護日誌に記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送りで個々の状況を把握するとともに、他職種連携により総合判断をし、個々の目標を定め残存能力維持・身体改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活や身体状況に合わせて、課題とケアについて、ご本人・ご家族・他職種との連携を保ち、創意工夫とアイデアを反映した計画の作成にあたっている。	計画の見直しは半年毎に行うが、大きな変化があれば担当者会議を開き、家族や医師、看護師等の意見を参考に現状に即した計画を作成している。日常の支援経過から得たモニタリング資料が役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスの利用者様やデイサービスにみえるボランティアとの交流イベントの参加等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望に合わせ、デイサービスに訪問するボランティアとの交流、福祉事業や公民館や町内会主催等への参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者様には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者様の健康管理を図っている。オーナーが歯科医なので、口腔内の管理に迅速に対応している。	協力医による往診が週2回あり、利用者の半数以上の主治医でもある。他の医院への受診は家族の協力を得ている。法人代表が歯科医であることから口腔ケアに恵まれており、毎週、法人所属の看護師による健康管理もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合は、医療機関と利用者様のご家族との連絡を密に行い、利用者様の安心につながる支援をしている。病院とのカンファレンスに参加して、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間を持ち確認している。また、終末期にはあらかじめ家族と意向の確認を行い、終末期の対応を家族と共に考える機会を設けている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、入居時に説明している。その期に及んだ時点で環境が整っていれば、医師の助言のもと家族の協力を前提に、文書で確認を取り看取りまで行っている。この1年間で1名の看取り経験がある。	看取りに関しては医師の助言に基づき家族の意向を大切に個々の対応をしているが、ターミナル介護と看取り介護の異なる部分を理解し看取りマニュアルに沿った職員の対応に関する研修の充実を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局主催による普通救命講習を職員が修了。応急手当や初期対応の訓練を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者様・職員が共に地域消防隊の立会い指導の下、防災訓練を行っている。	消防署との連携で年2回の法定火災訓練を含め、毎月テーマを決めて諸訓練を行っている。地域の防災訓練には職員が参加している。地震や水害等の第1次避難場所は安全を確保する上で事業所の3階を適切としている。	町内会や住民との関係は良いが、建屋内各事業所と地域防災組織との関係性が表面化していない部分がある。災害時に於いて、双方がどのような期待を持って接するのか現場には伝わっていない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外には開けることができない書庫に保管している。利用者様への声掛けは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。	人としての尊厳を守り、プライバシーを傷つけるような対応をしてはならない事については、介護のプロとしての意識を持って学習している。毎日の申し送り時に於いても、かかる案件で気がつきがあればその都度注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望は、やりとりを細やかに行うことで表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしができるように努めている。ご希望は、介護記録に記入して、申し送りができるようになっていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力を仰いでいる。散髪は、ボランティア(資格有)により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干し作り・干し柿作り・ちらし寿司作り等をスタッフと一緒にこなしている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がっていただけるよう努めている。	利用者の高齢化や身体状況の変化で食事時間の係わり方も変化してきているが、個々がADLに応じた持ち場を心得ている。食事をみんなで楽しんでもらうために、年末には恒例の「蟹パーティー」を企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや医師の指導を考慮した食事を提供している。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声掛けと介助により行っている。歯医者がオーナーなので異常には迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターンや習慣をいかし気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめ、スタッフも確認できる仕組みになっている。	排泄記録からパターンを把握し、プライバシーに配慮した自然な誘導を心がけ、各利用者の身体状況に応じた排泄支援を行っている。日中オムツで過ごす利用者にも怠りない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切に、利用者様の希望に沿って気持ち良く入浴して頂くよう努めている。	週2回の入浴を基本とするが、毎日の入浴を希望する1名の利用者にも断る事なく支援している。入浴を拒否する利用者には、声掛けのタイミングや職員間での誘い方を工夫して入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり安眠できたりするよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師と連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により、一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。服薬による症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・ぬりえ・体操・歌等個々の利用者様が得意分野を発揮し楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を作るように努めている。行事の際には予めご家族にもお知らせして協力が得られやすいように努めている。	体調が安定している利用者は、近くの河川の土手への散歩を日課としている。近所のコンビニエンスストアへ散歩を兼ねて出かけ、日用品やおやつを購入するのも楽しみの一つである。家族の支援により、利用者が外出する機会も多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会や散歩時に利用者様が買える物ができる機会を設け、買い物の楽しみを味わって頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて明るい廊下の壁面に季節ごとの催し物の写真や利用者様の作品を掲示している。	日中の殆どを過ごすリビングは、機能訓練やレクリエーションを行うにも適切な広さである。利用者が寛いでいる脇を往き来しても静かな落ち着きを妨げる事はない。居間に通じる廊下も広く、壁面には日頃の生活振りや行事での写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロー横の和室を気にいられている方・TVがよく見える位置がよい方・テーブルにて会話が弾む方々・居間で歌の練習をされる方等、一人ひとりが心地よく過ごすことができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあいの)写真をおかれている方・好きな写真を飾られる方等、少しの工夫でご本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。	居室は住み慣れた自宅の延長として慣れ親しんだ品々を持ち込むよう願っており、利用者の生活歴を物語る写真や小物を飾っている。質素であっても安全に落ち着いた生活ができるように、居室担当者と一緒に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの名前プレートやスタンドグラスの模様をご自分の部屋のマークとしている。手すりを廊下全体につけ安全に過ごすことのできる環境作りに努め、声掛け見守りにて自立支援をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社 山秀 マミー・ケア・サポート		
事業所名	有限会社山秀マミー・ケア・サポートグループホーム	ユニット名	マミーケアサポート3F
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬1丁目10番50号		
自己評価作成日	平成29年10月26日	評価結果市町村受理日	平成31年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202437-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202437-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいをもち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して、介護に努めます。  
入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。毎週全員参加型レクリエーションを企画し、また地域での音楽会などの催しにご家族も積極的に参加して下さい、とても楽しみにして頂いています。四季の移り変りに合わせて、四季折々の花や掲示物などをかざる事で、季節を感じる事の出来る暖かい空間を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち、共に生きよう」という理念に基づき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けて努力をしている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域の行事に参加したり、老人会ボランティアを受け入れたりしている。施設の行事や防災訓練のお知らせを町内に回覧して地域に向けての発信をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様が日々近所を散歩される折に、職員が仲立ちとなり、地域の方々と挨拶を交わし、認知症への理解や関心が得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表・施設長・職員で3ヶ月に1回の会議を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの指導のもと、必要に応じて連絡を取ったり、助言を受けたりしながら質の向上を図り、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束についての研修会に参加し、伝達研修を通じて全職員の理解を図っている。H27年度県主催のフォーラムのパネラーとしての参加実績もあげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市のホームページを活用し、虐待についての資料をミーティングで読み合う等、職員への周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する研修会に参加し、伝達研修を通じて全職員の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項の説明・看取りの方針などに関しては、十分な理解や納得が得られるまで説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご自分の意思を伝えて下さる利用者様はもとより、発意の少ない利用者様においても、様子やしぐさ態度などから判断して、運営に反映している。外部者へ表出する機会は設けていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営に関する職員の意見や提案を書面で集約・把握・検討する仕組みはあるが、現在、運営に関する意見は寄せられていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護離職の多い中、待遇面だけでなくやりがいのある仕事であるということを職員に啓蒙することで定着を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や実績に応じて様々な研修会への参加を奨励したり、介護福祉士免許の取得の斡旋をしたり等職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加をきっかけに他事業所も同様に抱えていると思われる諸問題等について積極的に意見をかわすことができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、安心感を抱いて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を聴き取り、医師をはじめ他職種と連携してサービス利用に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様への支援を継続する中で、入居時には見ることのできなかった感情の表現や会話が生まれ、利用者様からのねぎらいの言葉をうけることもみられる。自ら活動に参加され、職員が元気づけられる場面が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へのお便りの発送(毎月)・季節ごとの行事等をお知らせして、ご家族との絆を保つように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人なじみの町内会の行事や趣味のサークルへの参加に付き添いをしている。可能な限り、ご家族と外出をして頂けるよう働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす時間等を利用し、一ヶ所に集い、共に歌や体操をしたり、TVを見たりする時間を意図的に設けて、一人ひとりが孤立することがないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された利用者様や、ご家族からの要望があれば、フォローの体制を継続して相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族に対し面談や書面にて意向の聴き取りをしている。入居後は、ご本人の様子を見守りながらも、ご家族の目から見た様子の相違点があれば、申し出てもらうようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行っている。日常生活の中でご本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有できるように介護日誌に記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送りで個々の状況を把握するとともに、他職種連携により総合判断をし、個々の目標を定め残存能力維持・身体改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活や身体状況に合わせて、課題とケアについて、ご本人・ご家族・他職種との連携を保ち、創意工夫とアイデアを反映した計画の作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスの利用者様やデイサービスにみえるボランティアとの交流イベントの参加等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望に合わせて、デイサービスに訪問するボランティアとの交流、福祉事業や公民館や町内会主催等への参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者様には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者様の健康管理を図っている。オーナーが歯科医なので、口腔内の管理に迅速に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、医療機関と利用者様のご家族との連絡を密に行い、利用者様の安心につながる支援をしている。病院とのカンファレンスに参加して、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間をもち確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局主催による普通救命講習を職員が修了。応急手当や初期対応の訓練を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者様・職員が共に地域消防隊の立会い指導の下、防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外には開けることができない書庫に保管している。利用者様への声掛けは一人ひとりの人格を尊重するよう日頃より努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望は、やりとりを細やかに行うことで表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしができるように努めている。ご希望は、介護記録に記入して、申し送りができるようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力を仰いでいる。散髪は、ボランティア(資格有)により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干し作り・干し柿作り・ちらし寿司作り等をスタッフと一緒にこなしている。食事時間は、スタッフも一緒にテーブルにて会話しながらゆったりと召し上がっていただけるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや医師の指導を考慮した食事を提供している。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声掛けと介助により行っている。歯医者がオーナーなので異常には迅速に対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターンや習慣をいかし気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめ、スタッフも確認できる仕組みになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿い飲食物や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体への負担とならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切に、利用者様の希望に沿って気持ち良く入浴して頂くよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり安眠できたりするよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師と連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により、一人一人の薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。服薬による症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・ぬりえ・体操・歌等個々の利用者様が得意分野を発揮し楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら外出の機会を作るように努めている。行事の際には予めご家族にもお知らせして協力が得られやすいように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会や散歩時に利用者様が買い物ができる機会を設け、買い物の楽しみを味わって頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて明るい廊下の壁面に季節ごとの催し物の写真や利用者様の作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア横の和室を気にいられている方・TVがよく見える位置がよい方・テーブルにて会話が弾む方々・居室で歌の練習をされる方等、一人ひとりが心地よく過ごすことができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあい)の写真をおかれている方・好きな写真を飾られる方等、少しの工夫でご本人が過ごしやすい環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの名前プレートやスタンドグラスの模様をご自分の部屋のマークとしている。手すりを廊下全体につけ安全に過ごすことのできる環境作りに努め、声掛け見守りにて自立支援をしている。		